

景観形成基準適合チェックリスト

開発行為等, 土石等の採取

項目	景観形成基準	申請者ご自身でご記入いただく欄	
		チェック内容 (各欄ごとにいずれか一つの にレガ入らなければ「適合」となりません)	適・不適
開発行為等 土石の採取	・大規模な木竹の伐採はできる限り避け、行為の範囲は必要最小限とする。	現状の自然の植生を残す工夫を行う(具体的な内容: 現状の地形を生かす工夫を行う(具体的な内容: 行為の範囲を最小限にするその他の工夫(
	・行為の間や行為の後に地肌の露出が、道路など公共の場からできる限り目立たないように採取、掘採位置及び方法(植栽等)を工夫する。	行為の間や行為の後の地肌の露出が道路など公共の場所から目立たないように工夫する 採取、掘採位置(具体的な内容: 植栽(具体的な内容: その他の方法(具体的な内容: 行為地は道路など公共の場所から見えない	
	・法面はできる限り緩やかな勾配とし、緑化等により周辺の自然環境及びまちなみとの調和に配慮する。	法面を周辺の自然環境及びまちなみと調和させる ラウンディングを行う 分割して圧迫感を低減する 表面に草木などを植栽する その他() 行為地に法面は生じない	
	・擁壁は素材、表面処理の工夫、前面緑化等により、周辺の自然環境及びまちなみとの調和に配慮する。	擁壁を周辺の自然環境及びまちなみと調和させる 素材への配慮(自然石 その他) その他(具体的な内容: 表面処理の工夫(自然石 緑化 その他) その他(具体的な内容: 道路など公共の場からできる限り目立たないように工夫している 擁壁の前面に植栽をする 一つの擁壁からくる圧迫感を低減するために、高さの低い擁壁を複数段設置する その他() 擁壁の設置により、現状の地形及び自然環境を保全する 擁壁を築造しない その他	
	・敷地内にある良好な樹木、水辺等の自然資源をできる限り保全し、生態系に配慮して活用するように努める。	敷地内に良好な樹木がある場合は次のことを行う(同じ場所に残す 移植) やむを得ず保存できないため代わりとなる植栽を行う 水辺などの自然資源はそのまま保全する(自然資源の名称:) 水辺などの自然資源は少しでも残す(自然資源の名称:) 敷地内に良好な樹木や水辺等の自然資源はない	
	・水面の埋め立てにより生じる護岸等は、素材・形態の工夫等により、周辺の自然環境及びまちなみとの調和に配慮する。	自然石の積み上げや表面を石張りにする 自然素材に似せたコンクリート材を使用する その他	